

フェアプレイ
インタビュー
[カヌー・スラローム]
羽根田卓也選手



プロフィール
生年月日：1987年7月17日
出身地：愛知県

リオオリンピック
カヌー・スラローム
銅メダル獲得!

フェアプレーを学んだ
スポーツに全力で!

世界を驚かせた
リオ五輪での歴史的瞬間

リオ五輪のカヌー・スラロームで銅メダルを獲得した羽根田卓也選手。ヨーロッパ勢が表彰台を独占してきたカヌー競技において、アジア人初のメダリストが誕生した歴史的瞬間でした。

なかでも印象的だったのは、泣き崩れる羽根田さんの周りにライバルたちが集まり、心からの祝福を贈ったシーン。メダルに手が届かなかった悔しさの中でも、羽根田さんの努力を理解しその勝利を讃える姿は、見ている者たちにも感動を与え、観客席からは大きな拍手が沸き起こりました。

「競技に目覚めた中学生の頃から自分が費やしてきた時間やエネルギー、そのすべてが報われた瞬間でした。讃えてくれた選手たちは、メダル候補と言われていた人ばかり。それでも祝福してくれるというのは、素晴らしいフェア

東京五輪で
カヌーの魅力伝えたい

羽根田さんがヨーロッパの強豪を抑え銅メダルを獲得できたのは、高校卒業後にカヌーの強豪国・スロバキアにひとりりで渡り、10年間にも及ぶ修行の日々をもくもくとこなしした結果でした。

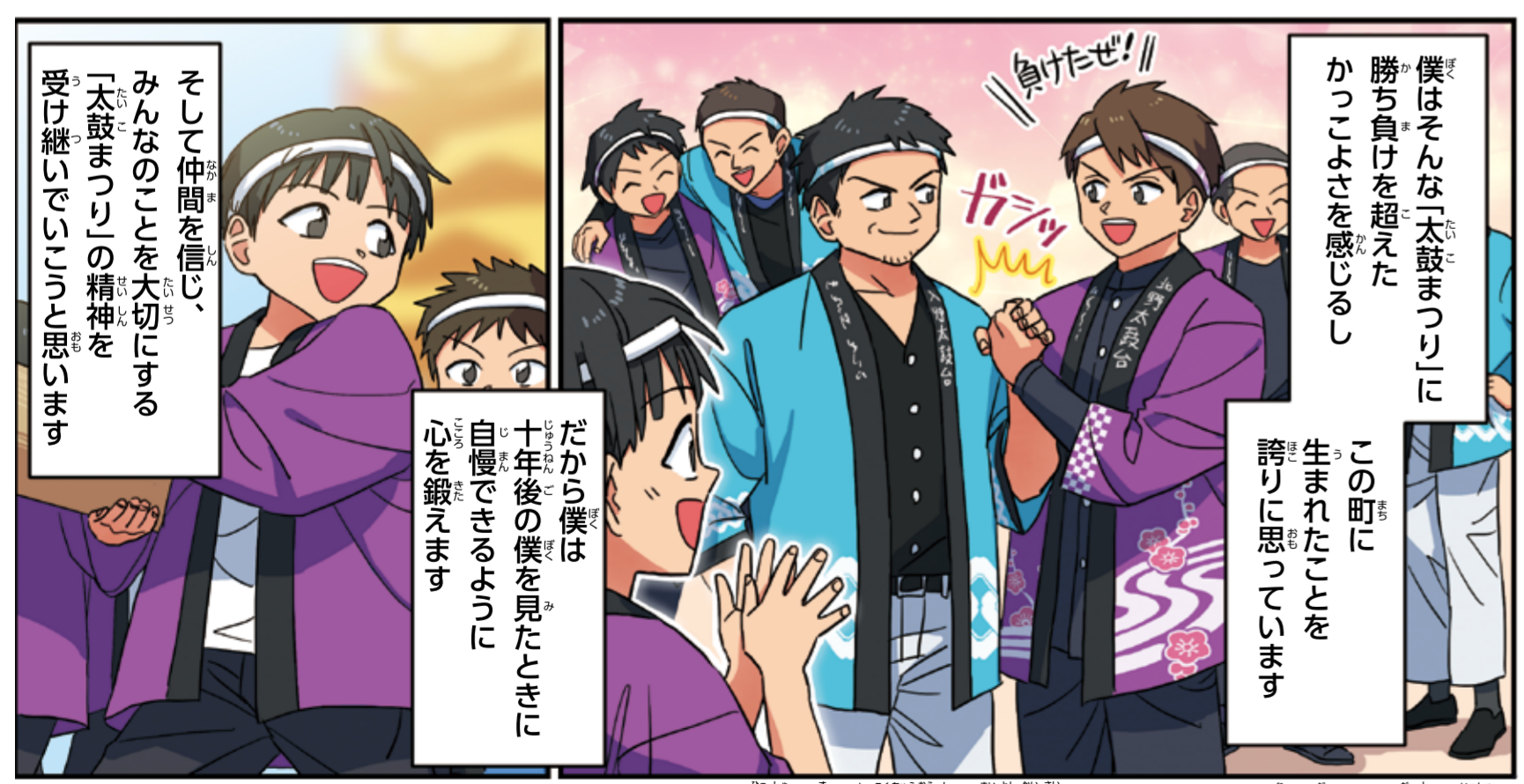
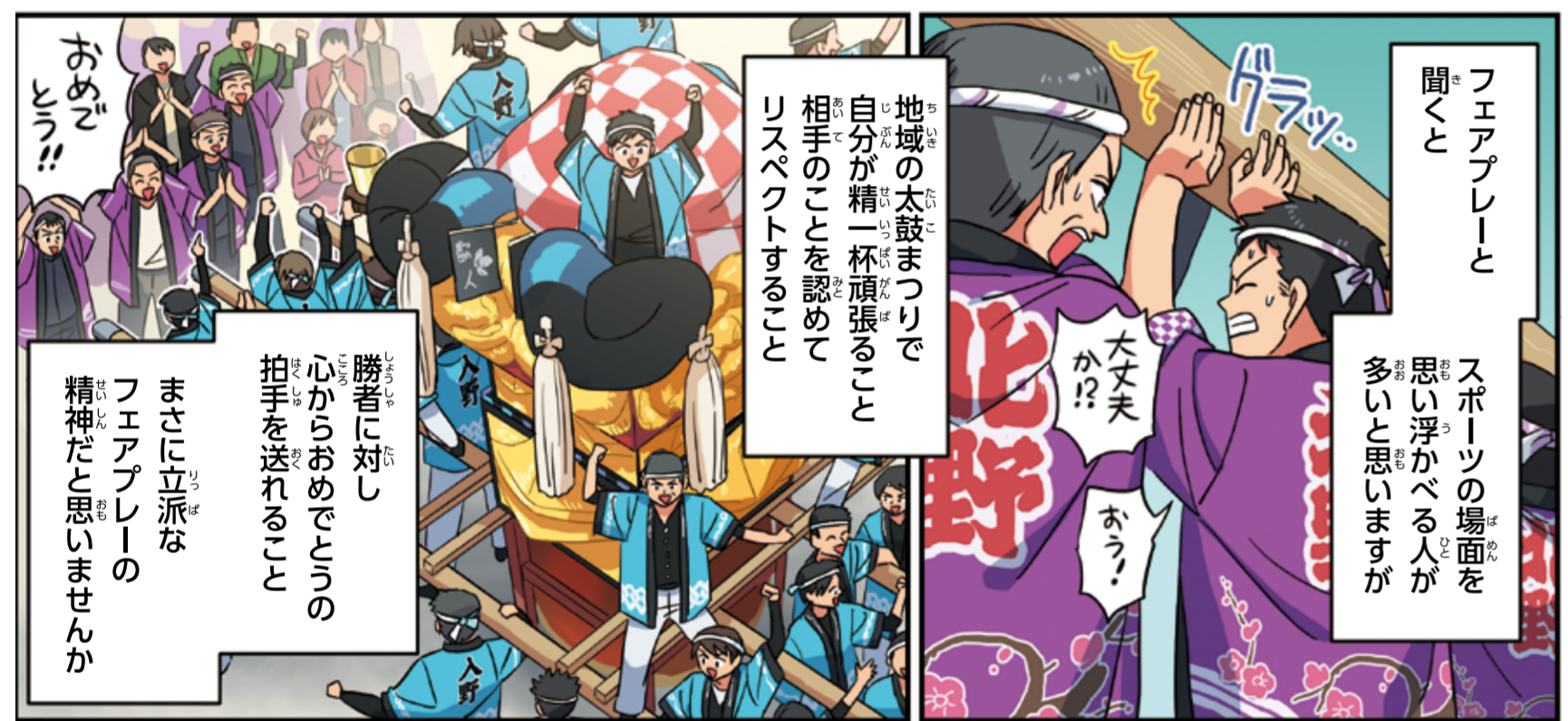
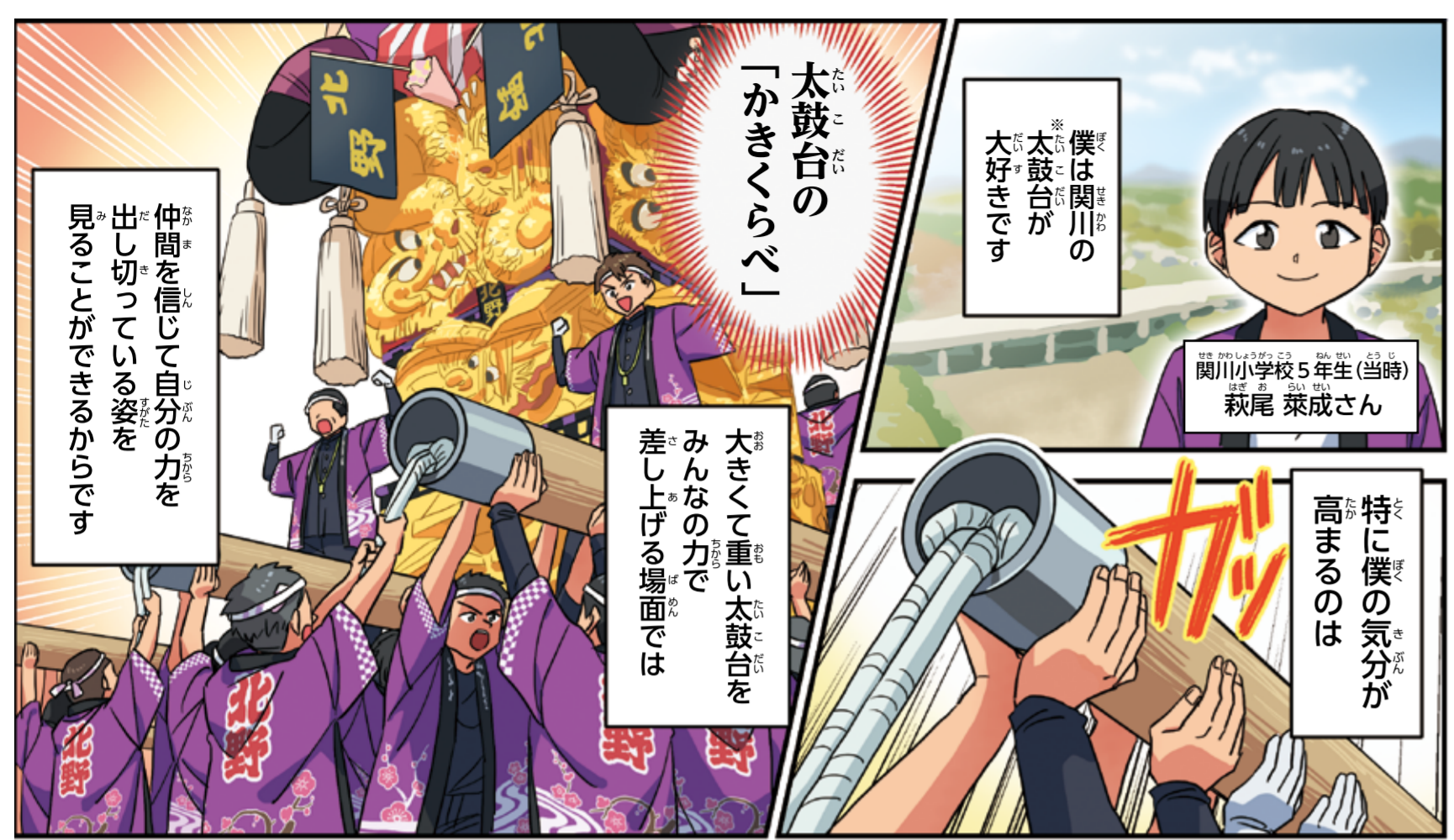
そんな羽根田さんがカヌーと初めて出会ったのは、小学校2年生の時。最初の頃はカヌー以外に



も、器械体操やスキー、バスケットボールなど、いろんなスポーツに取り組んでいたといいます。

「幼少期はひとつの競技をイヤになるまでやるんじゃないやなくて、まずは体を動かす楽しさを知って欲しいですね。楽しみながらいろんな動きに触れることが、将来の伸びしろにもつながると思います。カヌー・スラロームは激流を進む競技なので、水の呼吸を読み、いかに水の流れをコントロールして味方につけるかというのが極意。奥が深く、高い技術力が求められる競技ですが、自然と一体になった時の爽快感や気持ちよさというのは、他のスポーツにはないカヌーならではの魅力かなと思います」

今は来年の東京五輪に向け、最終調整中の羽根田選手。「勝負の素晴らしさ、カヌーの魅力を、オリンピックを通して伝えていきたい」と決意を新たにしました。



日本フェアプレイ大賞2020
大賞作品
「太鼓祭りとフェアプレー」
萩尾菜成さん

僕は関川の太鼓台が大好きです

特に僕の気分が高まるのは

大きくて重い太鼓台をみんなの力で差し上げる場面では

フェアプレーとスポーツの場面を思い浮かべる人が多いと思いますが

勝者に対し心からおめでとうの拍手を送れること

まさに立派なフェアプレーの精神だと思いませんか

僕はそのような太鼓まつりに勝ち負けを超えたかっこよさを感じるし

この町に生まれたことを誇りに思っています

だから僕は十年後の僕を見たときに自慢できるように心を鍛えます

そして仲間を信じ、みんなのことを大切にする「太鼓まつり」の精神を受け継いでいこうと思います

仲間を信じて自分の力を出し切っている姿を見るのができるからです

地域の太鼓まつりで自分が精一杯頑張ること相手のことを認めてリスペクトすること

おめでとう!!

大丈夫か!?

おう!

負けさせ!!

ガッ

ガッ

ガッ

「かきくろへん」

※筆者が住む四国中央市で毎年開催されるまつりにおいて練り出される山車の一機